

講義レポート

国外調査 アーバン・グリーン

レポート作成：草加市 成田圭子

ポートランドに滞在したのはわずか1週間でしたが、とてもたくさんのことを学び、そして感じてきました。

まず最初に、私はポートランドの住民や行政は皆、意識が高く、やはりアメリカ人はどこか違うのではと勝手なイメージを抱いていました。しかし、彼らは最初からそうであったのではなく、自らを顧みた過去があったのでした。自らの能力を過信せず、決して奢らず、改めて自らを省みることで、広く相手を受け入れる心を持つようになったのです。結局は、国は違うけれども同じ人間であったのだと改めて実感しました。

また、継続可能ということをととても大事にしていました。このため、様々な事業や個人のボランティアなどは、無理や無茶はなくとても現実的な内容となっていました。物事はすぐには変わっていきません。小さなことを継続して行い続けることが大事です。継続可能ということをお大事にすることで、結果、物事が少しずつ変わってきているのでした。

また、人と人との信頼関係をととても大事に考えていました。ステークホルダーは徹底的に拾い出し、丁寧にその人達へアプローチしていました。そして、居心地の良い環境づくりに気を配ったり、難しい議論も楽しく行っているのでした。

そして、何事も1人ではなくみんなで行うことを大事にしていました。1人では何も出来ません。そして1人の想いをみんなで議論し、共有することで、みんなの想いとし、パブリックなものにしていったのでした。また、そのみんなの1人1人を本当に信じていました。物事を始めるには想いだけではありません。さまざまなステークホルダーなどの地域の人の力を信じる必要があります。地域には、能力のある人がちゃんといて、そういう人たちの力を信じていました。

ここに書いていることはまるで夢のような気がしますが、これは現実のことです。結局は人の1対1の信頼関係がととても大事なのだと感じます。ポートランドの人は何か特別に変わった人なのではなくて、この信頼関係を大事にしているだけなのだと思う。それは私にも出来そうな気がします。

以上